

ス、二三獻藏人季時信範ス、ム、少將資賢タケノハニヲク露ノイロトイフ今様ヲウタフ、藏人辨
朝隆三獻ノカハラケトル、又頭中將ノス、メニテ朗詠ヲイダス、佳辰令月ノ句ナリ、頭中將朝隆
ガヒモヲトリ、人々ミナカタヌグ色々ノ衣ヲキタリ、用意アルナルベシ、頭中將朗詠、雖三百盃莫
辭ノ句ナリ、ヤウ〜醉ニノゾミテ、資賢白ウスヤウノ句ヲハヤス、主殿司アコ丸コトニタヘタ
ルニヨリテ、クツヌギニメシテツケシム、人々亂舞ノ後、ミコエイダシテ座ヲタチテ、御殿ノヒロ
ヒサシニテナダイメンハテ、宮ノ御方ニ參テ、朗詠雜藝數反ノ後マカリイデケリ、殿上ニテ人
大連歌アリケリ、

〔續世繼花散庭の面〕右大臣公能のおとゞ、略中藏人頭におはせし時も殿上の一す物し。略下

地火爐次

〔日本紀略十一條〕寛弘元年十月十七日丁酉、於殿上有地火爐次事、内大臣藤原奉仕、

〔古事談王道后宮〕二條院御時、喚諸卿於御前渡殿東第一間、立地火爐於清涼殿東廂庖丁、讚岐守高

明順朝臣先供御膳。略下

〔續古事談王道后宮〕一條院御時、臺盤所ニテ地火爐ツイデト云事アリケリ、左大臣、藤原傳大納

言道網藤原ナムドツカウマツラレケリ、大納言ハ銀ニテ土鍋ヲツクリテ、ヒサゴヲタテ、イモガ

ユライレタリケリ、中ノ渡殿ニ上達部候テ、清涼殿ノ廣庇ニ、庖丁ノ人々高雅明順ナド候ケリ、供

御マイラセ、人々ノ衝重スヘテ、御酒シキリニマイラス、管絃ヲ奏ス、醉ニノゾミテ、傳大納言タチ

テ舞ホドニ、冠オチニケリ、人々咲アヘルニ、廣幡ノオトバアザケラレケルヲキ、テ、此大納言何

ゴトイフゾ、妻ヲバクナカレテトイハレタリケル、聞人ハデヲシラズウタテキ事也トゾ云アヒ

ケル、

汗講

〔玉勝間十二〕汁といふ饗

甘露寺元長卿記に、於姉小路三位亭有汁、また内藏頭有招事、汁張行、など見えたり、今の世にも田